

| | | | | | |
|------|--------------------|-----------|------------|--------|-----|
| 講義名 | スポーツ科学演習B (テニス・卓球) | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 筑紫 智行 | 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 3時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 2年生 |

主題と概要
 平均寿命の高まりとともに、健康志向が強まっている。レクリエーション・スポーツ等の多くの種目を学ぶことで、スポーツの機会に触れ、生涯スポーツとして資することを目的とし、また将来にわたって健康に生きる力を身につけることを目的とする。そのためにも、ルールをしっかりと学び、自らの手で運営できるよう主体的に行動すること。さらには、生涯スポーツとして、男女問わず学生同士が楽しく参加できる機会をしっかりと考え、楽しさを感じることでその種目を深く知るきっかけを作り出すことを目的とする。
 本科目は、集団行動を伴うものであり、他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めると同時に、自らの役割を果たす必要がある。また、家庭学習へ取り組むにあたり、自ら目標を設定し、達成できるようにできるようにする。そのためには、様々な情報を収集したり、周囲と協力をしたりすることが求められる。そして、生じた課題に対して、その原因を分析し、どのような手段を用いれば解決できるのかを考え、それに向けて行動できるようにする。

到達目標
 1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
 2. 歴史やルール、応用技術・基本技術を理解し、説明できるようになる。
 3. 応用技術・基本技術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。
 *オンラインでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。
 ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学習などによって対応する。

提出課題
 授業内容と必要に応じて授業中に指示する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法
 テニス、卓球のルールやスキルを習得できているかを試合のプレーを通してチェックする。

評価の基準
 授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
 授業中の評価：受講態度・実技点など……………80%
 期末試験の評価：レポート提出……………20%
 新型コロナウイルス感染症対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、その時に詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他
 対面授業をもとに授業計画を進行するため、実技を伴う活動が求められる。実技を通して、各自が課題をみつけようとしていくことを基本とする。よって、この授業において求められることは、「健康」の獲得と実技を通して「スポーツの場」とすることである。それらを実現するため体調を整え、向上していく姿勢が求められる。
 受講の際は「トレーニングウェア(運動できる服装)」、トレーニングシューズを用意すること。忘れると授業に参加できない。
 授業への参加は、常に体調を整え積極的に参加すること。授業前に体調が悪いと分かっている場合は申し出ること。
 授業前・後は必ずマスクを着用すること。
 欠席により、内容を変更することがある。
 ネットレス、ピアス等アクセサリは授業前に外しておくこと。
 授業前・後は必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。

教科書
 .使用しない。

参考図書

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

その他
 授業中に適宜資料を配布する。

授業計画

- 1回：ガイダンス
- 2回：テニスのルールと基礎技術の説明
- 3回：テニスにおける基礎技術の習得(サーブ・レシーブ・ボレー・スマッシュ)
- 4回：テニスの実践(シングルスゲーム)
- 5回：テニスの実践(シングルスゲーム)
- 6回：テニスの実践(シングルスゲーム・ダブルスゲーム)
- 7回：テニスの実践(ダブルスゲーム)
- 8回：テニスの実践(ダブルスゲーム)
- 9回：卓球のルールと基礎技術の説明
- 10回：卓球における基礎技術の習得(サーブ・レシーブ・スマッシュ)
- 11回：卓球の実践(シングルスゲーム)
- 12回：卓球の実践(シングルスゲーム)
- 13回：卓球の実践(ダブルスゲーム)
- 14回：卓球の実践(ダブルスゲーム)
- 15回：まとめ

新型コロナウイルスの状況により、接触の恐れのある練習内容については実施できないこともある。その場合については、到達目標を優先するため内容を変更することがある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

| | |
|---------------------------------------|--|
| ア：PBL(課題解決型学習) | イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他(A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | |

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習(2時間程度)
 授業で実施する種目、技術について、動画サイトの活用やルールブック等を用いて事前に調べること。
 課題をクリアする方法を考えること。
 復習(2時間程度)
 授業を振り返り、反省点、課題を整理すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のキャリアプログラムポリシーへ貢献することができる。集団や個人でスポーツ実践へ取り組む中で、訪れる状況で、どのような場所でも物怖しすることなく、誰かでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ、のびのび、へこたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組むことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。
 生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。
 以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 本科目については対面授業のため、実技を中心とした授業展開となる。ただし、新型コロナウイルス対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、オンラインによって授業を実施することになるので留意すること。

実務経験の有無及び活用

備考